



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 霊長類研究所年報 2008, 38

ISSUE DATE:

2008-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166600>

RIGHT:

|||||

# 靈長類研究所年報

|||||

**Vol. 38**

**2008**

ANNUAL REPORTS OF THE  
PRIMATE RESEARCH INSTITUTE  
KYOTO UNIVERSITY

# 年報 Vol.38 目次

I. 巻頭言		1
II. 概要		
	1. はじめに	2
	2. 組織	5
	3. 予算概況	12
	4. 図書	16
	5. サル類飼育頭数・動態	18
	6. 資料	19
	7. 人事異動	21
	8. 海外渡航	21
	9. 非常勤講師	27
	10. リサーチ・アシスタント (R・A)	27
	11. ティーチング・アシスタント (T・A)	27
	12. 年間スケジュール	27
III. 研究活動	1. 研究部門及び附属施設	28
	進化系統研究部門	形態進化分野 28
		集団遺伝分野 33
		系統発生分野 35
	社会生態研究部門	生態機構分野 38
		社会構造分野 40
	行動神経研究部門	思考言語分野 42
		認知学習分野 48
		行動発現分野 52
	分子生理研究部門	器官調節分野 55
		遺伝子情報分野 58
	流動部門	多様性保全研究分野 61
	寄附研究部門	比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 63
		研究部門
		福祉長寿研究部門 64
	附属施設	ニホンザル野外観察施設 66
		人類進化モデル研究センター 70
	2. 学位取得者と論文題目	73
	3. 外国人研究員	73
	4. 日本人研究員・研修員	74
	5. 研究集会	所内談話会 76
		霊長類学総合ゼミナール2007 77
IV. グローバルCOEとしての活動		78
V. HOPEプロジェクト	1. 先端研究拠点事業HOPEの事業計画	79
	2. HOPEの組織	79
	3. HOPEプロジェクトの概要	80
	4. 平成19年度の各事業とその概要	82
VI. 広報活動	1. 公開講座	86
	2. 市民公開	86
	3. オープンキャンパス (大学院ガイダンス)	86
VII. 自己点検評価委員会報告		87
VIII. サル所外供給 (有償) 事業		87
IX. NBRPの活動		88
X. 共同利用研究	1. 概要	88
	2. 研究成果	89
	(1) 計画研究	89
	(2) 自由研究	98
	(3) 施設利用	104
	3. 平成19年度で終了した計画研究	108
	4. 共同利用研究会	第8回ニホンザル研究セミナー 109
		メタX-社会的認知における階層的処理過程の比較認知発達一 109
		霊長類ゲノムと脳・感覚研究の最前線 110
		マカクの進化と多様性に関する研究の現状と課題 110
		第37回ホミニゼーション研究会 112
XI. 本棟改修工事について		113
XII. 霊長類研究所40周年記念関連行事		114
XIII. ニホンザル野外施設の改廃と野生動物研究センターの設立		117

**野生動物研究センター発足**  
フィールドワークを基盤とした  
野生動物の研究と教育の推進

京都大学の理念  
地球社会の  
調和ある共存

産官学の連携による国際希少種の保全研究事業

Wildlife Research  
Center Kyoto Univ.  
霊長類研究所をはじめ、東  
南アジア研究所、生態学研  
究センター、フィールド生  
態学研究所、教育学研究所、  
理学研究所、アジアアフリ  
カ地域研究科など広範な学  
内部局との連携事業

理学研究所  
東南アジア  
研究所その  
他学内内部局

地域連携：  
東山動物園に企画官  
京都市動物園に京大准教授

オランウータン  
ゴリラ  
チンパンジー  
ヒト

寄附講座  
生きものたちの共生

名古屋市東山動物公園京都  
市動物園  
大山山博物館構想

アフリカの野外調査基地：新センターが共用  
ボツワナ・ニンバ研究拠点、チンパンジー  
カリンズ森林研究拠点、チンパンジー  
ワナバ研究拠点、ボノボ  
カフジ・ヒエガ研究拠点、ゴリラとチンパンジー

チンパンジー・サンクチュアリ・  
半生（平成19年4月発足）福祉  
長寿研究部門（8月発足）を新セ  
ンターに移行した

特別教育研究経費（連携融合事業）  
大学を核とした地域動物園  
との連携プロジェクト

京都市動物園 民間研究機関 名古屋市東山動物園  
三和化学研究所・サンクチュアリ半生  
林原類人猿研究センター

動物園で飼育する野生動物の研究・教育の機会の提供、および施設や資料の供与を通じた協力

野生動物の自然生息地の情報飼育・繁殖・健康長寿への示唆環境教育の素材や資料の提供

京都大学  
野生動物  
研究センター

野生動物研究センターは、イモ洗いで有名な天然記念物のサルがいる幸島と、世界自然遺産の屋久島に観察所をもち、さらに熊本県のチンパンジーサンクチュアリ、西アフリカの研究拠点を保有しています。

フィールドワークの伝統  
西アフリカ研究拠点

熱帯林から南極まで、海中からヒマラヤまで、  
自然をフィールドワークする野生動物研究センター

陸  
海  
空

サイ  
アジアゾウ  
基礎研究と教育を通じた社会貢献：保全と福祉

1958年のアフリカ探検（今西錦司）  
南極越冬隊（西堀栄三郎）チンパンジー  
登頂（桑原武夫）から50年に及ぶ京大  
のフィールドワークの伝統を再生する

20080418用

地域動物園等と連携した野生動物研究

野生動物の健康や長寿や福祉にかんする動物園や水族館等での実践研究  
動物園等の絶滅危惧野生動物の飼育や繁殖の指導  
動物園等における子どもたちのへの環境教育  
動物園等の役割である生涯教育や地域貢献の推進

動物園は自然への窓

研究者コミュニティからの支援

新しい研究領域の創生

国際連携  
米：ハーバード大学  
人類学部・博物館  
独：マックスプランク  
進化人類学研究所  
英：ケンブリッジ大学  
人類進化科学研究所  
日本学術振興会HOPE  
事業（平成15-20年度）

国内連携  
日本生態学会  
日本野生動物医学学会  
日本動物行動学会  
日本霊長類学会  
日本人間進化学会  
日本学術会議の対外報告：  
自然科学系博物館の将来

野生動物保全学  
動物園科学  
自然学  
野生動物  
研究センター  
霊長類研究所  
生態学研究センター  
フィールド科学教育研究センター  
学内連携・生物科学系  
研究所センター群

2008 年 8 月 31 日

発行者 京都大学霊長類研究所  
〒484-8506 愛知県犬山市官林 41 番地の 2  
<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/>

編集 自己点検評価委員会  
三上章允, 濱田 譲, 半谷吾郎, 宮部貴子  
編集担当: 半谷吾郎, 服部美里

印刷所 株式会社 コームラ  
<http://www.kohmura.co.jp>  
〒501-2517 岐阜県岐阜市三輪プリントピア 3  
TEL: 058-229-5858